

## 第21回 第2章 現代の経済

### 第2節 現代経済のしくみ

講師

升野伸子

# 市場経済の機能と限界

#### 学習のねらい

今回のテーマは、「市場経済の機能と限界」です。私たちの生活には、価格を見て考える場面が多くあります。それは、どのような意味を持っているのでしょうか。個々の経済主体が価格を見て行動するということが、経済活動全体にどのような影響を与えるのか、理解理解できるようになりましょう。

調べておこう  
覚えておこう

寡占／均衡価格／需要／独占禁止法／供給／  
自動調節機能／外部経済／情報の非対称性／  
市場メカニズム／外部不経済／公正取引委員会

※下記の空欄 \_\_\_\_\_ を「調べてみよう 覚えておこう」の語句で完成させましょう。

#### POINT 1

### もしも価格がなかったら？

- モノに価格がついているのは、原材料や賃金などの費用がかかっているからだけではありません。モノの価格を見て、買い手が買うか買わないかを判断しているのです。このとき買い手は、自分の得られる満足とそのために払う代金である価格を比較します。つまり、価格は、人々が行動を決める判断材料になっているのです。
- 価格がないと、モノとモノを交換する場合に、判断する材料がありません。そのため、直接交渉して相談し合う物々交換などのような狭い範囲の経済活動しか成り立たなくなってしまいます。

#### POINT 2

### 市場メカニズム

- モノが不足すると、価格が上がります。価格が上がると、買い手は「買うのをやめよう」とか「ほかのものを買おう」と思います。つまり、① \_\_\_\_\_ 量が減ってきます。逆に売り手は、「頑張って生産しよう」と思います。つまり、② \_\_\_\_\_ 量が増えてきます。
- この作用によって、モノが不足するときには価格が上がり、自然と①量が減り、②量が増え、モノ不足が解消します。モノが余っているときには価格が下がり、逆のことが起こります。
- このような価格の動きのことを、価格の③ \_\_\_\_\_ といいます。このとき、需要量と供給量が一致するような価格のことを④ \_\_\_\_\_ といいます。

